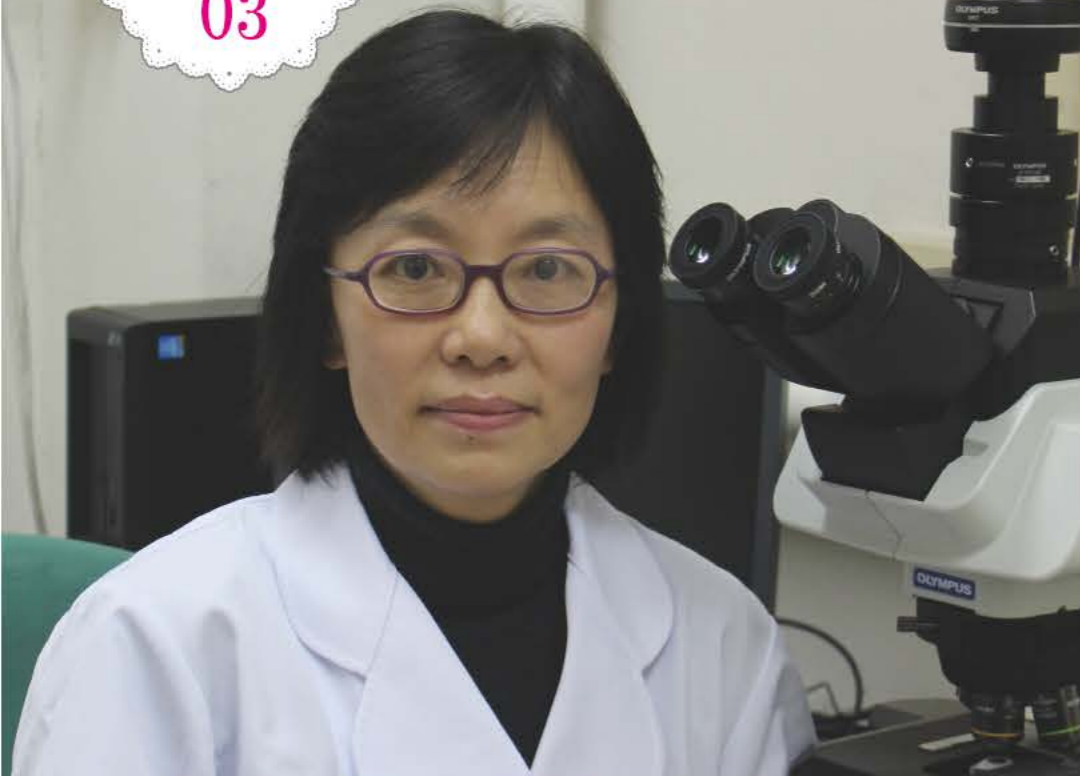


ロール  
モデル  
03



曲 寧

医学科  
人体構造学分野  
講師

中国医科大学卒業  
東京医科大学 博士（医学）  
2011年より現職

## 研究テーマ (一言でいうと)

生殖免疫の研究をしています。もともと小児科医なので、特に小児への抗がん治療によるリスクを減らす研究をしています。大人になって男性不妊症にならないよう、マウスを用いて漢方投与を行いながら精子を増やす動物モデルの実験解析をしています。

## 研究を続けられた モチベーション

日本人の「チーム精神」に救われています。外国人でも、女性でも、子育てをしても、教室ではお互いに協力をしていますので、同僚のサポートを受けることができます。子どもが体調不良な時も、「早く帰っていいよ。」と、研究をサポートしてくれて、教室事務を替わってくれます。また、互いにデータを隠さず、素直なアドバイスを受けることもできます。個人の力だけではできない教室の力が大きいです。また、子どもの成長に負の影響が出ることは嫌なので、私は子育てにも力を入れています。夫は優しい人で、子どもの教育にも協力してくれました。娘にも医者をめざすよう勧めています。いつか娘が研究をするとき、私の経験を娘に伝えるのが楽しみです。

## 研究の魅力、これからの夢

私は小さいときから好奇心が強く、何でも追及して原因を知りたいところがありました。研究の途中でどんな変化が起こるのか見えてくるとテンションが上がります。研究の世界では論文を出せば男女関係なしに評価されます。教室関連テーマをやりながら、ようやく、「子どもの抗がん治療」という、自分のテーマを持つことができるようになりました。学会でもよい評価をいただきました。今後は、臨床現場の患者さんにも生かされればとても嬉しいです。臨床の中の1つの問題解決ができることには達成感があります。研究のゴールまで頑張りたいと思います。日本に来て10年になり日本語がわかってきましたので、いつか、本屋さん巡りをして日本の小説を読みたいです。日本のきれいなところへ旅行をするのも楽しみです。

# 研究の世界は平等、 学会・論文で男女関係なく 評価される

## 未来の女性研究者への応援メッセージ

### 研究は自分のペースで仕事ができ、30代でも間に合う

私は子育てをしながら35歳で大学院生になりました。学童保育は6時までなので間に合う電車に乗れるよう研究を切り上げて、電車の中で実験を考え、子どもが寝た後に論文を書きました。指導をしている学部生から仕事と子育ての両立はできるのかと質問されることがありますが、自分で時間計画を立てやっていけるので大丈夫です。どんどん成長していけます。30代でも間に合います。同時に複数の研究をすることもでき、すべてがマルチタスクで進められるので人生がお得だと思います。



## これまでの道のり

私は文系女子でしたが、医者になるよう両親から強く勧められたことがきっかけになりました。子どもが好きだったので小児医学部に進み、臨床医として働きました。大学では英語クラスに属し、毎週20コマ夜まで英語を学んでいたのですが、イギリスに留学して学位を取るつもりでしたが、夫の仕事のため子どもも連れて一緒に日本に来ました。中国では研究をしたことがなかったのですが、実験や論文を読むこと、英語や文章を書くのが好きだったので、研究が一気に好きになりました。3年で学位を取得し、本学で仕事のチャンスももらえました。

## 大変だったこと

外国人であることが大変です。私は日本語学校にも通っていませんし、日本の文化事情も分かりませんでした。日本語を最初に学んでいたら、こんなに辛いことはなかったのではないかと思います。最初は、教室で日本語、実験手技を教してもらいながら研究を進めるので、他のスタッフに比べると準備の時間がすごくかかりました。たまったデータがたくさんあります。いろんな工夫をして、スピードを上げてやりたいです。また、娘の高校受験では、どこの学校がいいのか私が調べてあげないといけないことも多かったです。今は高校3年生になり大学受験がうまくいけば、これからは自分の時間も増えると思います。